

会員メッセージ

北の縄文道民会議 会員 佐藤 博幸



秋晴れのなか、オレンジ色の「北の縄文文化を世界遺産へ」北の縄文道民会議の「のぼり」が自宅前の学童歩道でなびいています。

道民会議事務局に相談し、3年前から2種類の「のぼり」を掲げており、いつも登下校の子どもたちが立ち止まって見上げていきます。

最近では、縄文文化に関する質問も多く、「世界遺産はまだ？」という声もあり、北の縄文文化に対する関心や期待度の高さに驚いています。

微力ではありますが、今後も、世界遺産登録の応援団員として『のぼり』掲揚啓発活動を推進していこうと思っています。

編集後記

会員の皆様、こんにちは。

今回は、初号ということもあり、編集長をはじめ、たくさんの方にご協力をいただき、何とか無事に発行にこぎつけることができました。とても嬉しく思っています。

お忙しい中にも関わらず、快く原稿をお引き受けいただきましたことに改めて厚くお礼申し上げます。

至らない点も多々あると思いますが、今後も、道民会議を盛り上げていくため、充実した内容を目指して精一杯取り組んでまいりますので、ご愛読のほどよろしくお願いいたします。

季節は、まもなく冬の到来です。環境が色々変わってまいります。皆様、くれぐれも健康にご留意ください。

最後までお読みいただき、ありがとうございました。(O. K)

編集・発行：北海道・北東北の縄文遺跡群の登録をめざす道民会議

編集長 谷 紘道 編集委員 岡田 和英

TEL 011-221-1122

FAX 011-221-0117

http://www.jomon-do.org/

E-mail ebisutani@cvt.chuo-bus.co.jp

私達の手で北の縄文遺跡を世界遺産へ！



Hokkaido Jomon Culture Promotion Council

国宝「中空土偶」は3500年の時を越えて
私たちに何を語りかけているのでしょうか？

- 自然と共生しながら1万年以上続いた縄文文化の大きな特色は
- 自然の恵みに感謝し、「惜しみない」精神を保ち続けたこと
 - 狩猟採集で糧を得ながら定住生活を行った世界でも稀な文化であること
 - 特に北海道では、縄文の精神がアイヌ文化まで受け継がれたこと

会員
募集中

《入会のご案内》

道民会議会員の申し込みは…

FAX 011-221-0111 7 道民会議事務局まで

お申し込みは、お電話またはメールでお願いします。
お申し込みの際は「入会申込書」を必ずお送りください。

ウェブサイトから
申し込みできます
http://www.jomon-do.org/

北の縄文道民会議 事務局

〒060-0001 札幌市中央区南一条西五丁目5番地 中央バスビル2F
株式会社シー・ピー・エス 札幌市中央区南一条西五丁目5番地
電話：011-221-1122（平日9時～17時、土曜9時～14時）

この縄文道民会議 後援

ホームページ http://www.jomon-do.org/

Facebook http://www.facebook.com/jomondomin

会費について

北の縄文道民会議 会員にお申し込みの方は、以下の会費をお振り込みください。

◆個人会員様/年間2,000円 ◆法人会員様/年間20,000円

《お振り込み先》

北洋銀行 札幌市役所支店 店番号485

普通預金 口座番号：3213342

口座名：北の縄文道民会議

北の縄文道民会議
Hokkaido Jomon Culture Promotion Council

HOKKAIDO JOMON CLUB NEWSLETTER

北の縄文 秋 2016

第1号 H28年10月発行

目次

- 創刊にあたって……………1
- 道民会議誕生秘話 / 道内各地の活動状況……………2
- 北海道の縄文文化の魅力……………3
- よもやまばなし/構成資産から/会員メッセージ……………4
- 縄文トピックス……………5
- 北海道庁から……………6

～ 会報の創刊にあたって ～

日頃から当会議の運営及び活動に対してご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

私たちは、より多くの方々に北海道の縄文文化の素晴らしさや魅力を知っていただくとともに、縄文遺跡群の世界遺産登録に向けて機運を盛り上げ、北海道に暮らす私たち一人ひとりが道民運動の大きなうねりをつくっていくため、「北の縄文道民会議」を設立しました。

今では、個人法人を含め会員が600となり、本年4月で設立4年を迎えることとなりました。

これもひとえに、会員の皆様のご尽力によるものと考えております。

これまで、北海道庁の縄文世界遺産推進室と協力するなどして、縄文土器・土偶展のほか、各種縄文シンポジウム、セミナー開催、縄文ツアーによる遺跡の現地視察など、さまざまな活動を展開してきたところです。

これから、年4回の発行を目指して鋭意取り組んで参りますので、皆様のご協力をよろしくお願い致します。

また、今後も引き続き、パネル展やセミナーなど色々な行事を通して、縄文文化の世界遺産登録をめざした啓蒙運動を展開してまいりますので、道民会議の活動への積極的な参加を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



北の縄文道民会議 代表 堀 達也



道民会議・縄文文化を発信する会の誕生秘話

～北の縄文に導かれた わが人生～

「えっ、これは・・・」私は絶句しました。

南茅部町（当時）の『大船遺跡資料室』で、初めて「足形付土版」を見たときの事です。

案内して下さった阿部千春学芸員の説明を聞きながら、身体中が熱くなり、涙を堪えることが出来ませんでした。

約6,000年前の墓から出土した土版は、土器よりもろいにもかかわらず、丁寧な文様が施され、穴に紐を通して大事に保管され、制作者の遺体とともに副葬されたものと考えられています。

足形は6センチから18センチまであり、くっきりと写し取られていることから、死後硬直の様子がうかがえます。

生後まもなく、あるいは成人する前に亡くなった子供の幸福や再生を願った縄文の母（親）の心が押し寄せてきました。縄文にのめり込んだ瞬間でした。以来、心優しき友人たちと、縄文人の「全ての生命を尊ぶ心」こそ、現代の諸課題を解決する原動力になると語り合ってきました。

人情に厚い堀知事にも訴えたところ、早速、平成11年2期目の選挙公約に「世界遺産登録をめざす北の遺産構想」を掲げていただきました。

平成14年、北海道・東北知事サミットで「北の縄文文化回廊」を提起し、各県持ち回りのフォーラムが開催されました。

平成16年、南茅部町は函館市と合併されましたが、阿部さんとはさらに連携を強くして、平成19年6月にとうとう「中空土偶」が北海道唯一の国宝に指定され、その勢いで正式に4道県で世界遺産登録を共同提案することが合意され本格的に動き始めました。この動きを道民各層に拡げようと発足したのが「北の縄文文化を発信する会」です。平成19年12月に、石森秀三先生を代表に官民問わず「縄文の心」が通じ合う人々でスタートしました。翌年の洞爺湖サミットで「中空土偶」を展示し、世界に発信する契機としたり、定期的に縄文講座を開き2冊の本を出版したり、「土偶展」に4万人の来館者があったり、徐々に縄文に関心を寄せる人が増えてきました。

一貫して、主導的な役割を果たして下さった北海道庁は、平成23年に「推進室」を設置し、体制を強化し「道民会議」発足へと発展の支えをして下さいました。

更に、世界遺産が地域振興に繋がることから、全国各地で活発な要請運動があり、縄文も昨年、国家議員を中心とした「議員連盟」も発足しました。いよいよ、正念場に来た今こそ、道民の心を集結し、登録実現に向けて、一層の努力をお誓い致します。

北の縄文文化を発信する会 幹事 浜名 正勝



道内各地の活動状況

「とかち縄文の会」から

とかち縄文の会は2011年にとかち在住の会員およそ40名で発足しました。現代の科学技術の急速な発展とともに進む、社会の高度化多様化や人間関係の複雑化などへのアンチテーゼとしての縄文時代の社会や文化への関心が高まりを見せています。そうした中、北東北と北海道の縄文遺跡の世界文化遺産登録の機運が盛り上がり、十勝地域からも応援していきこうということから会の発足をみたのです。

縄文遺跡の見学ツアー、博物館（帯広百年記念館）と連携しての講演会や勉強会の開催、北海道ユネスコ協会の大会での十勝地域の縄文時代の紹介などを進めてきました。

今秋は北海道新幹線を利用して、道南と北東北の遺跡を改めてじっくり勉強しようという計画を立てていたところですが、水害による交通事情不安定などのため断念せざるを得ませんでした。

北海道から沖縄まで日本列島の全域にわたって縄文文化と大きくくりできる文化が展開していたとされていますが、列島内部においても地勢や気候、動植物相など地域差があります。

また、旧石器時代から続いている列島外との交流も、地域により相手方や濃淡に差があり、それらが縄文文化の地域間の差異として現れるのは想像に難くありません。



とかち縄文の会
会長 砂川 敏文

道央、道南と道北、道東では様相が違います。北方の大陸、サハリンとの関係、影響が指摘される道東北に対して、東北地方との関係が深い道南道央、十勝地方は双方の境界に位置しているとの印象です。時代によりそれぞれの特徴を持つ遺跡が残されています。

帯広市の大正三遺跡からは約1万4千年前、縄文草創期の日本最古に属する土器が出土しています。海洋性の魚（鮭・鱒）を煮炊きした痕跡が残されており、土器を煮炊きに使用した最古の証拠ともいわれています。

縄文遺跡の世界文化遺産登録については、当初想定していたスケジュールの遅れや課題も指摘されていますが、関係の諸機関の尽力により早期に実現されることを期待しています。それによって全国的に縄文文化への関心が一層高まり、私たちが現代社会の諸問題に適切に対処するための知恵とヒントを見出し、共有していくことにつながれば何よりです。

とかち縄文の会としても、その一助となるように道民会議の一員として活動を続けたいと思っています。



北海道の縄文文化の魅力

北海道縄文のまち連絡会

幹事 工藤 義衛

世界遺産を目指している「北海道・北東北の縄文遺跡群」17ヶ所うち、北海道には函館市の大船遺跡、垣ノ島遺跡、伊達市の北黄金貝塚、洞爺湖町の高砂貝塚、千歳市のキウス周堤墓群があります。

道内では数千の遺跡が発見されていますが、なぜ、そのなかからこの5遺跡が選ばれたのでしょうか。

それは、この5遺跡がとても「特別」であり同時に「ふつう」の遺跡だからです。



例えば、函館市の大船遺跡には巨大な竪穴（たてあな）住居が残されています。ご覧になった方は、きっとその大きさに圧倒されたことでしょう。

こんな巨大な竪穴住居は他にはありません。その意味では「特別」な遺跡です。

大船遺跡に立つと、これほど巨大な竪穴をどうやって掘ったのか？暖房は？照明は？換気は？、と疑問が次から次へと湧いてきます。

実は、地面を掘りくぼめて作る竪穴住居は縄文時代にはごく「ふつう」のものです。

また、日本だけでなくユーラシア大陸の北方民族にも広く見られる家のかたちで、寒冷地に住む人類の「ふつう」のすまいと言えるでしょう。

そのため、大船遺跡の巨大竪穴についての疑問のほとんどは、実は「ふつう」の竪穴住居に共通するものなのです。

千歳市のキウス周堤墓群は、高さ数メートルもある土手の中に作られた墓地です。

縄文時代を通してこんな大きな土木工事を施した墓地は「特別」な存在です。しかし、中に作られているお墓は、地面を掘って作るもので、縄文時代の「ふつう」のお墓の作り方です。

なぜ、このようなものを作ったのか様々な解釈がありますが、死者のために作られたことは間違いありません。作ったものの大きさと気持ちの強さが測れるわけでないけれど、やはりあれほど大きなものをつくるには、死者を想う強い気持ちがあったのでしょう。わたしは何度も見学者をキウスにご案内していますが、どの方も、ここに立つと厳粛な面持ちになります。

それは、死者を想う気持ちが人類に「ふつう」にあるものだからでしょう。

キウスは、数千年前の縄文人が現代人と同じように死者を想う気持ちを持っていたことの証なのです。縄文文化の特徴のひとつは、たくさんの土器や石器を遺したことです。その中には、土偶や周堤墓など人類が共通して持つさまざまな祈りの気持ちが反映されたものがあります。その豊かさは世界的に見ても珍しいもので、まさに、世界遺産、人類の遺産としてふさわしいものです。



縄文遺跡には、「ふつう」の縄文人が、わたしたち現代人と同じように考え、想って生きた証が残されています。北海道の縄文遺跡群5遺跡は、そのことが最も印象的で最も分かりやすい遺跡が選ばれています。

ぜひ、これらの遺跡を訪れ、その「特別」に驚き、次に「ふつう」の縄文人に思いをはせていただけたらと思います。